

## 私のお薦めコーナー 木彫りの熊「熊彫」にハマる！

石 黒 聡

### 1. はじめに

みなさんのお家には木彫りの熊がありますか？

私は、木彫りの熊発祥の地である八雲町に4年半ほど単身赴任していますが、触れる機会も少なく、ほとんど興味がありませんでした。もちろん、私の自宅には木彫りの熊は有りませんでした、最近までは。今回は、どっぷりとその魅力にハマってしまった木彫りの熊についてご紹介します。

北海道に生まれ育った方であれば、実家や親戚の家に凜として鮭を啜えた黒々とする木彫りの熊が必ずと言っていいほど鎮座していたのではないのでしょうか。40台中盤に差し掛かる私も例に漏れず色濃く記憶に残っています。

現代の北海道のお土産といえば、チョコレートやクッキーなど定番といえる銘菓や海産物のように味覚、嗅覚を刺激して記憶に残る「きえもの」が主流です。昭和30年から40年代(1950年から60年代)の北海道観光ブームにおいては、食品加工技術や冷凍技術がまだ乏しかったので食品よりも、視覚を刺激して旅行の思い出を深く刻める「記念の品」としての木彫りの熊がお土産の主役であったことは想像に容易いです。観光地や駅、空港、どこにいても同じような熊が売っていました。正直、家に1体あれば十分。場所を取る同じような意匠の熊が何体も必要ははずはなく、ブームが過ぎ去った後の木彫りの熊たちは床の間や飾り棚の隅で長らく肩身の狭い思いをしていたのに違いないでしょう。

しかし、平成から令和に移り変わろうとしていた2010年代後半から、昭和を知らない若者たちから始まった昭和レトロブームに乗って、じわじわと木彫りの熊が再熱していることをご存知でしょうか。

大手セレクトショップや感度の高いデザイン系のライフスタイル雑誌が特集を組み、オシャレなカ

フェやショップで販売されています。東京で開催された展示会では8,000人を超す集客があったと聞くと驚くばかりです。

### 2. 木彫り熊生誕100周年(2024年)

八雲町は渡島半島の北側、函館から80km程のところに位置しています。町名、八雲は北海道には珍しくアイヌ語に由来していません。開拓の父と呼ばれる第十七代尾張藩主の徳川慶勝が名付けました。

尾張に縁の深い熱田神宮に祭られているスサノオノミコトが詠んだ「八雲立つ 出雲八重垣妻籠みに八重垣作る その八重垣を」を引用されました。この和歌には、新妻とともに新たな生活に向かう気持ちが詠われており、新しい理想郷建設の願いが込められていました。明治11年(1878)に旧尾張藩士たちの集団移住によって開拓が進められましたが、北の大地では厳しい一面もありました。第十九代当主の徳川義親が大正11年(1922)に旅先のスイスでお土産として売られていた木彫りの熊に出会い、「雪に閉ざされた農閑期、八雲の農民たちが楽しみながら製作でき、販売すれば現金収入にもなって生活改善にも役に立つ」と八雲に広めました。

大正13年(1924)3月に「第1回農村美術工芸品評会」を開催。今から約100年前の事です。

「熊彫」として商品化すると、その人気は全国に広がり、八雲のみならず北海道を代表するお土産となりました。

私は北海道の木彫りのお土産はアイヌ文化に深く関わりがあり、木彫りの熊もアイヌにルーツがあるかと勝手に思っていましたが、八雲から旭川や全道に広がったこと、ルーツが尾張やスイスにあったことにロマンを感じずにはられません。

### 3. 木彫りの熊にハマる

八雲町では飲食店、喫茶店、町内の至る所に木彫りの熊が展示されています。ふと見ると一体一体の彫り方が違って、顔の表情も熊によって個性があります。擬人化して愛らしくスキーやスノーボード、日々の生活を人間のように過ごす熊たちもいます。

八雲の木彫り熊は、昭和3年当時に2頭の子熊を飼育して、その生態を観察することで生まれたものだそうです。2頭はとても人馴れした熊で、擬人化された優しい熊として表現されています。

対して旭川の熊は、荒々しい野生の熊がモチーフになっており、勇猛なイメージを持っています。

その中で私が興味を持ったのは、小洒落た古着屋に飾られていた旭川の佐藤憲治さんという熊彫作家の作品でした。そのポリゴンで描いたような直線的なカッティングでそぎ落とされたフォルム、シナノキの無垢材の表情、現代家具とも調和するシャープさの中にある愛らしさに惹かれました。札幌にある有名な木彫りの熊の卸問屋さんで1時間以上悩んで佐藤憲治さんの作品を1頭連れて帰りました。週末の自宅でこの子を愛でながら呑むクラフトジンは最高のご褒美です。

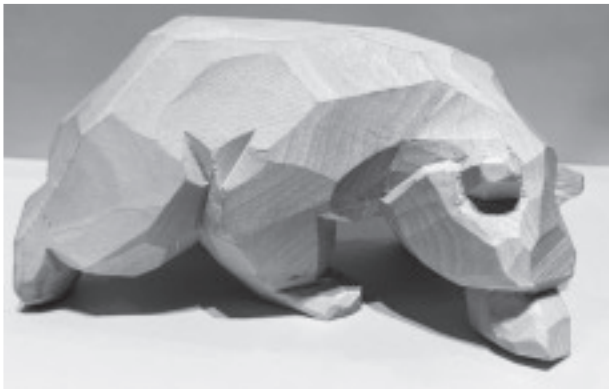


写真-1 我が家の子となった佐藤憲治さんの作品

### 4. 木彫りの熊を彫る(熊彫体験)

JR八雲駅の近くにある熊彫作家の小熊秀夫さんの「熊友工房(ゆうゆうこうぼう)」では、熊彫体験(予約制 3,000円/人、所要時間2~3時間、不定休、TEL090-8904-6433)ができます。

ゴールデンウィークを利用して妻と中学生、小学生の息子の家族4人で熊彫体験に挑戦しました。

熊彫体験のモチーフとなったのは、八雲を代表す

る熊彫作家でハツリ彫りによる抽象熊に多くのコレクターを生み出した柴崎重行氏の熊。聞くからに難易度高そうであるが、果たして素人のミドルエイジと子供たちにできるだろうか。恐る恐る切り出しナイフ、彫刻刀、ノミを振るう。確かに難しいですが、小熊先生が優しく丁寧に教えてくださり、4人とも何とか完成しました。嫌な事を全て忘れて彫ることに集中した最高の3時間でした。自分で彫った熊はお世辞にも上手とは言えませんが、これもまた愛らしく、この子と呑むウイスキーも格別です。



写真-2 熊彫体験による筆者の抽象熊



写真-3 熊友工房の小熊先生と子供たち

以上が、私の熊彫に対する偏愛物語です。八雲町には、木彫り熊資料館など至る所に熊彫の名所が点在しています。みなさまも足を運んで熊彫の魅力に触れてみてはいかがでしょうか。

石 黒 聡(いしくろ あきら)

技術士(建設部門)

日本技術士会北海道本部 広報委員会  
清水建設株式会社 北海道支店土木部

